

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習演習
科 目 名	臨床実習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	後期 集中	教室名	外部実習先
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習に必要な書類の作成、実習中のマナーについて理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習に必要な書類の作成、実習中のマナーについて理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	わだち整骨院・香里園整骨院・美作名倉堂接骨院・かねもと鍼灸整骨院・橋本スポーツ鍼灸整骨院・赤穂鍼灸整骨院・大谷接骨院 龍野院・だいふく鍼灸整骨院 東予院				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	わだち整骨院・香里園整骨院・美作名倉堂接骨院・かねもと鍼灸整骨院・橋本スポーツ鍼灸整骨院・赤穂鍼灸整骨院・大谷接骨院 龍野院・だいふく鍼灸整骨院 東予院				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	わだち整骨院・香里園整骨院・美作名倉堂接骨院・かねもと鍼灸整骨院・橋本スポーツ鍼灸整骨院・赤穂鍼灸整骨院・大谷接骨院 龍野院・だいふく鍼灸整骨院 東予院				



2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習演習
科 目 名	臨床実習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 集中	教室名	外部実習先
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	わだち整骨院・香里園整骨院・美作名倉堂接骨院・かねもと鍼灸整骨院・橋本スポーツ鍼灸整骨院・赤穂鍼灸整骨院・大谷接骨院 龍野院・だいふく鍼灸整骨院 東予院				
第17回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	わだち整骨院・香里園整骨院・美作名倉堂接骨院・かねもと鍼灸整骨院・橋本スポーツ鍼灸整骨院・赤穂鍼灸整骨院・大谷接骨院 龍野院・だいふく鍼灸整骨院 東予院				
第18回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	わだち整骨院・香里園整骨院・美作名倉堂接骨院・かねもと鍼灸整骨院・橋本スポーツ鍼灸整骨院・赤穂鍼灸整骨院・大谷接骨院 龍野院・だいふく鍼灸整骨院 東予院				
第19回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	わだち整骨院・香里園整骨院・美作名倉堂接骨院・かねもと鍼灸整骨院・橋本スポーツ鍼灸整骨院・赤穂鍼灸整骨院・大谷接骨院 龍野院・だいふく鍼灸整骨院 東予院				
第20回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	わだち整骨院・香里園整骨院・美作名倉堂接骨院・かねもと鍼灸整骨院・橋本スポーツ鍼灸整骨院・赤穂鍼灸整骨院・大谷接骨院 龍野院・だいふく鍼灸整骨院 東予院				



## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	JATI特講		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	後期	教室名	303教室
担 当 教 員	生田 晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士 NSCA-CPT JATI-ATI			
<b>《授業科目における学習内容》</b>						
1、2年生で学習し、習得したトレーニングの知識、実技をベースに、資格取得目標の一つであるJATIの資格試験合格に向けた試験対策授業ではあるが、資格対策のみではなくトレーニング指導の基礎から応用まで再度学習し、資格合格と共にトレーニング指導も出来るように学習していく。						
<b>《成績評価の方法と基準》</b>						
定期試験:70点 出席点:20点 平常点:10点						
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b>						
トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] 一般科目ワークノート改訂版、専門科目ワークノート改訂版 配布プリント						
<b>《授業外における学習方法》</b>						
事前にテキストを読み込む。 学習した内容はテキスト、配布プリントを用いて復習をする。 また練習問題を繰り返し行い、苦手分野を克服できるようにしておく。						
<b>《履修に当たっての留意点》</b>						
欠席してしまうと、欠席のところの内容が学習されないまま進んでしまうため、全コマ出席を目指しましょう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	体力学総論、バイオメカニクスについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。	
	各コマにおける授業予定		【体力学総論】 【バイオメカニクス】スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動生理学について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。	
	各コマにおける授業予定		【運動生理学】 呼吸循環系、エネルギー代謝と運動			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動と栄養について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。	
	各コマにおける授業予定		【運動と栄養】 基礎知識・スポーツ選手の競技力と栄養、健康増進と栄養			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動と心理について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。	
	各コマにおける授業予定		【運動と心理】 基礎知識・競技力向上への活用、健康増進への活用			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動と医学について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。	
	各コマにおける授業予定		【運動と医学】 救急処置・整形外科的障害と予防・生活習慣病とその予防/運動指導の科学			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	トレーニング計画の立案について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【トレーニング計画の立案】		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	筋力トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【筋力トレーニングのプログラム作成】 【筋力トレーニングの実際】		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	パワー向上トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成】 【パワー向上トレーニングの実際】		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	持久力向上トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成】 【持久力向上トレーニングの実際】		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	スピード向上トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成】 【スピード向上トレーニングの実際】		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	柔軟性向上トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成】 【柔軟性向上トレーニングの実際】		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	特物な対象のためのトレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	特別な対象のためのトレーニングプログラム		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	傷害の受傷から復帰までのトレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	トレーニング効果の測定と評価について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	トレーニング効果の測定と評価		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	トレーニングの運営と情報活用について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	トレーニングの運営と情報活用		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	リハビリテーション医学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時間	前期 月・1限	教室名	303教室
担当教員	鈴木 伸典	実務経験とその関連資格	医師免許			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>リハビリテーション医学を学ぶ意義は、『けがをした部位』を見る視点から、『生活に困っている人全体』を見る視点へと広げることにあります。長期の固定や安静は、時に筋力低下や関節の拘縮といった『廃用症候群』を引き起こします。リハビリテーションの知識があれば、患部を保護しながらも、全身の機能を落とさないための早期介入が可能になります。患者さんの早期社会復帰を実現するための強力な武器となるよう知識を修得します。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>定期試験、出席状況、学習状況、課題、レポート、小テストなどで評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>解剖学を基本として、リハビリテーション全般に対して学ぶ。 教科書内容(リハビリテーション医学:南江堂)に応じて、教科書やスライドを交えて授業を進める。</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>教科書に沿ってリハビリテーションの意義を確認 必ず必要となる病状や症状があり、後療法に対して役立つ。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>外傷を対象とする柔道整復師には、後療法に対して非常に役立つ科目です。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションとはが理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	教科書を読み、理念を把握	
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの理念			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学の対象が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	理念の復習とリハビリ対象者の予習	
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの対象と障害者の実態			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	世界の疾病分類等が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	障害者のアプローチの予習	
		各コマにおける授業予定	障害の階層とアプローチ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	各検査法や評価などが理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	検査法等の予習	
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション評価学			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害学がわかる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	リハビリの障害学の予習	
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション障害学と治療学①			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	治療学がわかる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	リハビリの治療学の予習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション障害学と治療学②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	リスク管理が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	リハビリの障害と治療の復習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション障害学と治療学③		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	コ・メディカルが理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	リスク管理の復習と関連職種とはの予習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学の関連職種		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法・作業療法・言語聴覚・義肢装具の意義が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	コ・メディカルの実際の復習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション治療技術		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に対する医療が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	関連職種との協力の意義の復習
		各コマにおける授業予定	高齢者のリハビリテーション		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の治療と後療法、骨粗しょう症が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	高齢者に対する医療の復習
		各コマにおける授業予定	運動器のリハビリテーション①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	捻挫のアプローチや上肢・下肢損傷後症候群が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	治療や病名の復習
		各コマにおける授業予定	運動器のリハビリテーション②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸肩腕症候群・腰痛症・肋骨骨折・腱断裂等が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	軟部組織損傷の復習
		各コマにおける授業予定	運動器のリハビリテーション③		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉・介護保険・障害者スポーツ等が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	軟部組織損傷の復習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションと福祉 障害者スポーツ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	総合的にリハビリテーションとはが理解でき、今後役に立つ知識が確認できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	総合理解 定期試験対策
		各コマにおける授業予定	まとめ・復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	医学史		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
医学史全般を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
プリント 柔道整復学 理論編						
《授業外における学習方法》						
必要な知識を学ぶ。						
《履修に当たっての留意点》						
現代医学を学んでいく上で必要不可欠な医学の歴史を学ぶ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医学の歴史について学習する。	配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般	
	講義形式	各コマにおける授業予定	医学の歴史			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	西洋の医学史について学習する。	配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般	
	講義形式	各コマにおける授業予定	西洋の医学史			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	西洋の医学史について学習する。	配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般	
	講義形式	各コマにおける授業予定	西洋の医学史			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	西洋の医学史について学習する。	配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般	
	講義形式	各コマにおける授業予定	西洋の医学史			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	東洋の医学史について学習する。	配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般	
	講義形式	各コマにおける授業予定	東洋の医学史			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	東洋の医学史について学習する。		配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般
	各コマにおける授業予定	東洋の医学史			
第7回	授業を通じての到達目標	東洋の医学史について学習する。		配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般
	各コマにおける授業予定	東洋の医学史			
第8回	授業を通じての到達目標	日本の医学史について学習する。		配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般
	各コマにおける授業予定	日本の医学史			
第9回	授業を通じての到達目標	日本の医学史について学習する。		配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般
	各コマにおける授業予定	日本の医学史			
第10回	授業を通じての到達目標	日本の医学史について学習する。		配布プリント	配布プリントの熟読 医学の歴史全般
	各コマにおける授業予定	日本の医学史			
第11回	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
	各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史			
第12回	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
	各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史			
第13回	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
	各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史			
第14回	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
	各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史			
第15回	授業を通じての到達目標	医療倫理の歴史について学習する。		公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
	各コマにおける授業予定	医療倫理の歴史			

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	国家試験対策講座 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時間	前期 月3・4	教室名	304
担当教員	松尾 起命	実務経験とその関連資格	柔道整復師免許(実務経験:4年)			
《授業科目における学習内容》						
解剖学の復習						
《成績評価の方法と基準》						
素点:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版 南江堂						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問問題・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
資料や図形を用いて、立体的に理解すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨格系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	全身の骨の復習			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨格系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	全身の骨の復習			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋の名前、グループ分け、支配神経の復習			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	下肢の筋の名前、グループ分け、支配神経の復習			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋の起始・停止・作用の復習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋の起始・停止・作用の復習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋の起始・停止・作用の復習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋の起始・停止・作用の復習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	体幹の筋の起始・停止・作用の復習		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	体幹の筋の起始・停止・作用の復習		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	復習テスト		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脈管系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	総論		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	脈管系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	心臓		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	脈管系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	心脈管系		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	脈管系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	心脈管系		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー	科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	国家試験対策講座2	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	3年	学期及び曜時間	前期 月3・4	教室名	303
担当教員	松澤 伸也	実務経験とその関連資格	柔道整復師 柔道整復専科教員		

《授業科目における学習内容》

生理学は、生体が生命を維持するために行っている機能や仕組みを研究する学問である。柔道整復師を目指す学生にとって、人体の「正常な働き」を理解することは、外傷による機能不全を正しく評価し、施術を提供するための不可欠な基礎となる。本講義では、単なる知識の習得に留まらず、生理学的メカニズムを臨床現場での処置(アイシング、固定、手技療法)と関連付けて考察し、将来、科学的根拠に基づいた適切な施術を行える能力を養うことを目的とする。

《成績評価の方法と基準》

定期試験、出席状況、学習状況、課題、レポート、小テストなどで評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

解剖学 改訂第2版 南江堂  
生理学 改訂第4版 南江堂

《授業外における学習方法》

問題演習で実施した内容の復習

《履修に当たっての留意点》

用語の暗記はもちろん、知識がアウトプットできるようになることを目指す。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義を通じての到達目標	講義概要が理解できる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、理解度確認小テスト、解答・解説		
第2回	講義を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
	各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第3回	講義を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
	各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第4回	講義を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
	各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第5回	講義を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
	各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	国家試験対策講座2		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時間	前期 月3・4	教室名	303
担当教員	松澤 伸也	実務経験とその関連資格	柔道整復師 柔道整復専科教員			
《授業科目における学習内容》						
<p>生理学は、生体が生命を維持するために行っている機能や仕組みを研究する学問である。柔道整復師を目指す学生にとって、人体の「正常な働き」を理解することは、外傷による機能不全を正しく評価し、施術を提供するための不可欠な基礎となる。</p> <p>本講義では、単なる知識の習得に留まらず、生理学的メカニズムを臨床現場での処置(アイシング、固定、手技療法)と関連付けて考察し、将来、科学的根拠に基づいた適切な施術を行える能力を養うことを目的とする。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験、出席状況、学習状況、課題、レポート、小テストなどで評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版 南江堂 生理学 改訂第4版 南江堂						
《授業外における学習方法》						
問題演習で実施した内容の復習						
《履修に当たっての留意点》						
用語の暗記はもちろん、知識がアウトプットできるようになることを目指す。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	教科書、資料	問題演習内容の復習
		各コマにおける授業予定	理解度確認小テスト、解答・解説		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 水3・4	教室名	302
担 当 教 員	松尾 起命	実務経験と その関連資格	実務経験:3年			
《授業科目における学習内容》						
解剖学の復習						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問問題・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
資料や図形を用いて、立体的に理解すること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	脈管系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	心脈管系(胎児循環)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脈管系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	リンパ系			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脈管系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	総論			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	脈管系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	心臓			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問を通して四択問題に慣れる。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	過去問			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	消化器①		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	消化器②		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	消化器③		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	消化器④		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	呼吸器①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	呼吸器②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	呼吸器③		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	呼吸器④		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	泌尿器①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	泌尿器②		

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 水3・4	教室名	302
担 当 教 員	松尾 起命	実務経験と その関連資格	実務経験:3年			
《授業科目における学習内容》						
解剖学の復習						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問問題・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
資料や図形を用いて、立体的に理解すること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第2 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	泌尿器③			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第3 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	生殖器①			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第4 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	生殖器②			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第5 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	生殖器③			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	内臓系の理解を深める。	解剖学 改訂第6 版	授業範囲の予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	過去問			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系①		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系②		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系③		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系④		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系⑤		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系⑥		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系⑦		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系⑧		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系⑨		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の理解を深める。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	過去問		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	前期 火4, 木4	教室名	303
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	JATI-ATI、NSCA-CPT、健康運動指導士			
《授業科目における学習内容》						
トレーニング指導者資格試験に合格できるよう、基礎医学含めたスポーツ理論や、実践的知識や方法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、学習状況、課題などで評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
トレーニング指導者テキスト(理論編・実践編・実技編)						
《授業外における学習方法》						
模擬問題の出題箇所をテキストと照らし合わせ、出題傾向を確認する						
《履修に当たっての留意点》						
用語の暗記はもちろん、知識がアウトプットできるようになることを目指す。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト		テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト		テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト		テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト		テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト		テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格に向けて、自己の理解度、到達度がわかる。	トレーニング指導者テキスト	テキストを精読する
		各コマにおける授業予定	模擬問題の実施・解答・解説 模擬問題とテキストの確認ワーク		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	国家試験対策講座Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	国家試験対策講座Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 月4・水1	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 月4・水1	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようにになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 月4・水1	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 31 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し 出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベ ルの演習、解説			
第 32 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し 出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベ ルの演習、解説			
第 33 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し 出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベ ルの演習、解説			
第 34 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し 出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベ ルの演習、解説			
第 35 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し 出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベ ルの演習、解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第37回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第38回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第39回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第40回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第41回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第42回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第43回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第44回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第45回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 月4・水1	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 46 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			
第 47 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			
第 48 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			
第 49 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			
第 50 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第51回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第52回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第53回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第54回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第55回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第56回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第57回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第58回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第59回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第60回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 月4・水1	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
	各コマに おける 授業予定	国家試験必修問題対策				
第2回	授業を 通じての 到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
	各コマに おける 授業予定	国家試験必修問題対策				
第3回	授業を 通じての 到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
	各コマに おける 授業予定	国家試験必修問題対策				
第4回	授業を 通じての 到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
	各コマに おける 授業予定	国家試験必修問題対策				
第5回	授業を 通じての 到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
	各コマに おける 授業予定	国家試験必修問題対策				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験必修問題出題範囲の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	国家試験必修問題対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 月4・水1	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学、一般臨床医学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	解剖学、生理学、一般臨床医学の国試出題レベルの演習、解説		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 月4・水1	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第31回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説			
第32回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説			
第33回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説			
第34回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説			
第35回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第37回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第38回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第39回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第40回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第41回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第42回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第43回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第44回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		
第45回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	病理学、衛生学・公衆衛生学、外科学、運動学の国試出題レベルの演習、解説		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策講座Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 月4・水1	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として、講義・国家試験に準じた四択問題・演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題科目のテキスト						
《授業外における学習方法》						
適宜配布した宿題プリントを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 46 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			
第 47 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			
第 48 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			
第 49 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			
第 50 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が 理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、 解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第51回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第52回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第53回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第54回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第55回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第56回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第57回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第58回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第59回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		
第60回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学、柔道整復学の内容を理解し出題意図が理解できるようになる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	過去問題集を解く。 調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学、柔道整復学の国試出題レベルの演習、解説		

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	外科学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	前期 水・4限	教室名	303教室
担 当 教 員	塩路 康信	実務経験と その関連資格	美作市立大原病院 院長 医師免許			
《授業科目における学習内容》						
日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を各臓器別に学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
一般臨床医学・病理学で学んだことを基礎に外科的に考えて症状から治療の仕方を学ぶ。 教科書内容(外科学概論:南江堂)に応じて教科書・パワーポイント等で授業を進める。						
《授業外における学習方法》						
国家試験に対して重要科目で、必ず臨床現場にて遭遇する疾患がある。症状等を確認する必要がある。						
《履修に当たっての留意点》						
患者さんの訴えに対して幅広く考え、適切な判断ができるように外科的知識を学ぶ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	損傷がわかるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論①(損傷)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	炎症の意味や感染症の意味が分かるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	病理学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論②(炎症と外科感染症)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	腫瘍とはどういうものかが理解できる。 ショック状態やその時の措置がわかるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論③(腫瘍、ショック)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	消毒や滅菌の意味が分かるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論④(輸血、輸液、消毒と滅菌)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術の分類などが理解できる。 麻酔の意義や使用方法などが理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	公衆衛生学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論⑤(手術、麻酔)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	移植の種類、免疫の意味がわかる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
		各コマにおける授業予定	総論⑥（移植と免疫）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	出血の意味、種類と止血の意味、種類が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
		各コマにおける授業予定	総論⑦（出血と止血）		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	蘇生の重要性がわかる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	総論⑧（心肺蘇生法）		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経外科疾患、甲状腺・頸部疾患について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
		各コマにおける授業予定	各論①(脳神経外科疾患、甲状腺・頸部疾患)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸壁・呼吸器疾患について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
		各コマにおける授業予定	各論②(胸壁・呼吸器疾患)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓・脈管疾患について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	各論③(心臓・脈管疾患)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳腺疾患について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	各論④(乳腺疾患)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の機能とその疾患について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	各論⑤(消化器の機能とその疾患)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	腸疾患、腹部炎症性疾患について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	各論⑥(腸疾患、腹部炎症性疾患)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期履修範囲について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	総合的な復習 まとめ
		各コマにおける授業予定	各論⑦(まとめ)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	基礎分野	授業の方法	実習
科目名	整復臨床実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時間	後期	教室名	体育館
担当教員	奥野 勝彦	実務経験とその関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道Ⅱにおいて修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(背負投、巴投、肩車の受け身)の取得を目標とする。「投の形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
1 実技試験70%      2 出席20%      3 平常点(グループワーク中の態度発表)10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布プリント						
《授業外における学習方法》						
国際大会 国内大会など中継及びネット配信を 興味を持って観戦する。						
《履修に当たっての留意点》						
高度な受け身を習得するとともに 回転運動などを 自分の体調や今までのけがなど考慮し自己管理をして授業に参加する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	柔道着の確認	
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	前回り受身 飛び込みの前回り受身の確認	
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動	
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	投げの形と 実践の投げ技の違いの確認	
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	抑え込みの確認 袈裟固め 横四方固め	
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	投げの形での 崩しの確認
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	相手を楽に持ち上げる方法 足の筋肉を使って
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	寝技のパリエーションを増やしていく
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	投げの形での 受身の確認
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	指導がくる 要素
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	審判を体験
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	試合運営の確認
		各コマにおける授業予定	認定実技審査対策(礼法、受け身、形、乱取り)		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技対策として、礼法、受け身、形、乱取りを練習し理解することができるようになる。	配布プリント	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	基礎分野	授業の方法	実習
科目名	整復臨床実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時間	後期 木・3限	教室名	体育館
担当教員	難波 浩子 奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道4段 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道Ⅱにおいて修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(背負投、巴投、肩車の受け身)の取得を目標とする。「投の形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
1 実技試験70%      2 出席20%      3 平常点(グループワーク中の態度発表)10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道 南江堂						
《授業外における学習方法》						
国際大会 国内大会など中継及びネット配信を 興味を持って観戦する。						
《履修に当たっての留意点》						
高度な受け身を習得するとともに 回転運動などを 自分の体調や今までのけがなど考慮し自己管理をして授業に参加する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形について理解できるようになる。	柔道 南江堂	柔道着の確認	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 投げの形鑑賞			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	背負い投げの受け身を習得できるようになる。	柔道 南江堂	前回り受身 飛び込みの前回り受身の確認	
		各コマにおける授業予定	背負い投げの原理(受の動き)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	背負い投げの投げ方における前回り裁きができるようになる。	柔道 南江堂	すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動	
		各コマにおける授業予定	背負い投げの原理(取の動き)			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	後ろ回り裁きができるようになる。	柔道 南江堂	投げの形と 実践の投げ技の違いの確認	
		各コマにおける授業予定	背負い投げと一本背負い			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げてからの抑え込みと下からの寝技の攻防ができるようになる。	柔道 南江堂	抑え込みの確認 袈裟固め 横四方固め	
		各コマにおける授業予定	寝技での背負い投げ、寝技での肩車			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	巴投げの受け身ができるようになる。	柔道 南江堂	投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	巴投げの原理(受の動き)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	巴投げで投げられるようになる。	柔道 南江堂	投げの形での 崩しの確認
		各コマにおける授業予定	巴投げの原理(取の動き)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩車の取の動き方が理解できるようになる。	柔道 南江堂	相手を楽に持ち上げる方法 足の筋肉を使って
		各コマにおける授業予定	肩車の原理(取り動き)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩車における現在のルールについて理解できるようになる。	柔道 南江堂	寝技のバリエーションを増やしていく
		各コマにおける授業予定	肩車を使った寝技		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形の手技ができるようになる。	柔道 南江堂	投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	投げの形(取の動き)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	受身の動作および立ち方を理解し、できるようになる。	柔道 南江堂	投げの形での 受身の確認
		各コマにおける授業予定	投げの形(受の動き)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合のルールを理解できるようになる。昇段を目指す。	柔道 南江堂	指導がくる 要素
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて 投げの形(手技の受取)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	団体戦の礼法ができるようになる。昇段を目指す。	柔道 南江堂	審判を体験
		各コマにおける授業予定	試合の団体戦の礼法について 投げの形(腰技の受取)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	トーナメント試合について理解できるようになる。昇段を目指す。	柔道 南江堂	試合運営の確認
		各コマにおける授業予定	トーナメント試合について 投げの形足技の受取		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	公式試合に出場できる知識を身につけられるようになる。	柔道 南江堂	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	柔道基礎実技Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	後期 木1.2限	教室名	実習室2
担 当 教 員	岡本一馬	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員 かとう整形外科 みどりまち接骨院			
《授業科目における学習内容》						
実技認定試験に対応する内容である。実際の臨床との関連を明確にし、卒業後においても役に立つ内容を提供する。また、柔道整復師国家試験の対象範囲でもあるため国家試験も意識した授業を心がける。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復試験財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施し評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を常に想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組んでもらう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う	
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、柔道整復実技およびレジюме	オリジナルレジюмеに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	柔道基礎実技Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	後期 木1.2限	教室名	実習室2
担 当 教 員	岡本一馬	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員 かとう整形外科 みどりまち接骨院			
《授業科目における学習内容》						
実技認定試験に対応する内容である。実際の臨床との関連を明確にし、卒業後においても役に立つ内容を提供する。また、柔道整復師国家試験の対象範囲でもあるため国家試験も意識した授業を心がける。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復試験財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施し評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を常に想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組んでもらう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ	オリジナルレジュメに基 づいて自宅学習を行う	
		各コマに おける 授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第 17 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ	オリジナルレジュメに基 づいて自宅学習を行う	
		各コマに おける 授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第 18 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各外傷の検査、整復、固定が正確に行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ	オリジナルレジュメに基 づいて自宅学習を行う	
		各コマに おける 授業予定	前期授業の復習 実技認定試験対策			
第 19 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	膝に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ	オリジナルレジュメに基 づいて自宅学習を行う	
		各コマに おける 授業予定	膝外傷・障害について(検査、固定、治療)			
第 20 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	膝に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ	オリジナルレジュメに基 づいて自宅学習を行う	
		各コマに おける 授業予定	膝外傷・障害について(検査、固定、治療)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足部に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	足外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第22回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足部に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	足外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第23回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	肩外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第24回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	肩外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第25回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肘に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	肘外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第26回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肘に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	肘外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第27回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	手に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	手外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第28回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	手に起こる外傷や障害の検査 治療の組立を行えるようになること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	手外傷・障害について(検査、固定、治療)		
第29回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	後期授業で行ったことが理解できているかを確認すること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	後期授業総復習		
第30回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	後期授業で行ったことが理解できているかを確認すること	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う
		各コマにおける授業予定	後期授業総復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義実習
科目名	柔整基礎実技Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (3) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時間	後期 木3	教室名	実習室2
担当教員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
軟部組織損傷の後療法について理解し、実践する。						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験及び記述試験にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</li> <li>・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</li> <li>・「運動学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・医歯薬出版株式会社</li> </ul>						
《授業外における学習方法》						
解剖学、機能解剖学の理解を深め、組織損傷の病態から必要な後療法を選べるよう知識をつける						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	腰部の手技療法、運動療法			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	腰部の手技療法、運動療法			
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	腰部の手技療法、運動療法			
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	腰部の手技療法、運動療法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	腰部の手技療法、運動療法		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	腰部の手技療法、運動療法		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	まとめ	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	復習、実技練習		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	実技試験	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	実技試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	柔整応用実技Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	前期 木・3限	教室名	303教室、実技室2
担 当 教 員	木下 和樹	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格 理学療法士			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習を行うにあたって必要となる医療面接法、体表観察法、評価・測定 of 修得を目指す						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
臨床実習ガイドライン 柔道整復師学理論編・実技編 解剖学						
《授業外における学習方法》						
身体部位の触診、身体計測、ROM、MMT、等の予習、復習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習においても必ず必要となる実技である。また国家試験や柔道整復師業務において重要科目である						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習について理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	講義ガイダンス・オリエンテーション			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療面接について理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	医療面接 言葉使い、問診、接遇、視診			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	主要な骨、筋を触知できる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	主要な骨と筋の触知			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	身体計測、バイタルサインができる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	血圧測定、四肢長、四肢周径			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ROM測定ができる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ROM測定ができる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頸部・上肢		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	下肢		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	反射検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	深部反射、表在反射		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	感覚検査・運動機能検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	表在・深部感覚、上肢・下肢・体幹の機能検査		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実技総復習	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	これまでに行った実技を行う		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実技を行う	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	実技試験		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	再復習をおこない疑問点などを解消する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	授業総復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	柔道整復臨床実技 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	前期 木・1, 2限	教室名	実技実習室2
担 当 教 員	岡本 一馬	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員 かとう整形外科7年勤務 みどりまち接骨院5年勤務			
《授業科目における学習内容》						
実技認定試験に対応する内容である。実際の臨床との関連を明確にし、卒業後においても役に立つ内容を提供する。また、柔道整復師国家試験の対象範囲でもあるため国家試験も意識した授業を心がける。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復試験財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施し評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を常に想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組んでもらう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	橈骨遠位端骨折について理解し、診察と整復を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	コーレス骨折 診察 牽引直圧整復法・屈曲整復法				
第2回	授業を 通じての 到達目標	コーレス骨折の固定を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	コーレス骨折 クラール副子と局所副子・三角巾固定				
第3回	授業を 通じての 到達目標	ボクサー骨折の特徴を理解する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	第5中手骨頸部骨折 アルミ副子掌側固定				
第4回	授業を 通じての 到達目標	第5中手骨頸部骨折の固定を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	第5中手骨頸部骨折 アルミ副子掌側固定				
第5回	授業を 通じての 到達目標	第2指PIP関節背側脱臼について理解する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	第2指PIP関節背側脱臼 アルミ副子背側固定				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折について理解し、整復法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折 整復法		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折 固定法		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼について理解し、診察と整復法を取得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼 診察と整復法		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼 固定法		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折について理解し、診察と整復を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折 診察と整復		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折について理解し、固定具を作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折 ミッドドルフ固定		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折 ミッドドルフ固定		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼について理解し、診察と整復法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼 診察と整復法		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼 局所副子・三角巾固定		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節後方脱臼について理解し、診察と整復法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肘関節後方脱臼 診察と整復法		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義実習
科目名	柔道整復臨床実技 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	前期 木・1, 2限	教室名	実技実習室2
担当教員	岡本 一馬	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員 かとう整形外科7年勤務 みどりまち接骨院5年勤務			
《授業科目における学習内容》						
実技認定試験に対応する内容である。実際の臨床との関連を明確にし、卒業後においても役に立つ内容を提供する。また、柔道整復師国家試験の対象範囲でもあるため国家試験も意識した授業を心がける。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復試験財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施し評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を常に想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組んでもらう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	授業を 通じての 到達目標	肘関節後方脱臼の固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	肘関節後方脱臼 固定法				
第 17 回	授業を 通じての 到達目標	肘内障について理解し、診察と整復法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	肘内障の診察と整復法				
第 18 回	授業を 通じての 到達目標	肋骨骨折について理解し、固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	肋骨骨折 さらしと厚紙副子固定				
第 19 回	授業を 通じての 到達目標	下腿骨幹部の固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	下腿骨幹部骨折 クラメール副子				
第 20 回	授業を 通じての 到達目標	下腿三頭筋損傷(肉離れ)について理解し、診察と検査法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	下腿三頭筋損傷(肉離れ) 診察と検査法				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	演習形式	授業を通じての到達目標	アキレス腱断裂について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	アキレス腱断裂 クラメール副子固定		
第22回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、診察と検査法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 診察と検査法		
第23回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 局所副子固定		
第24回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 局所副子固定		
第25回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 バasketウィーブテープ固定		
第26回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロック固定		
第27回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期授業で行った疾患の診察、整復法、固定について再度理解し復習	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	前期 授業で行った疾患の診察、整復法、固定法		
第28回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期授業で行った疾患の診察、整復法、固定について再度理解し復習	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	前期 授業で行った疾患の診察、整復法、固定法		
第29回	演習形式	授業を通じての到達目標	実技テスト(整復実技5分、固定実技5分)	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	認定実技試験の評価法に基づいて整復操作および固定実技について評価する。		
第30回	演習形式	授業を通じての到達目標	実技テスト(整復実技5分、固定実技5分)		
		各コマにおける授業予定	認定実技試験の評価法に基づいて整復操作および固定実技について評価する。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義実習
科目名	柔整臨床実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時間	前期 水・3限	教室名	実技実習室2
担当教員	松澤 伸也	実務経験とその関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
軟部組織損傷の評価について理解し、実践する。						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験及び記述試験、小テスト、レポート等にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</li> <li>・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</li> <li>・運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版(メジカルビュー社)</li> </ul>						
《授業外における学習方法》						
解剖学、機能解剖学の理解を深め、組織損傷の病態を考える。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 授業を通じての到達目標	オリエンテーション		教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション				
第2回	講義 授業を通じての到達目標	下腿三頭筋損傷(肉離れ)について理解し、診察と検査法を習得する		柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ		
	各コマにおける授業予定	下腿三頭筋損傷(肉離れ) 診察と検査法				
第3回	講義 授業を通じての到達目標	アキレス腱断裂について理解し、固定法を習得する		柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ		
	各コマにおける授業予定	アキレス腱断裂 クラール副子固定				
第4回	講義 授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、診察と検査法を習得する		柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ		
	各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 診察と検査法				
第5回	講義 授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する		柔道整復理論、柔道整復実技およびレジュメ		
	各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 局所副子固定				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 局所副子固定		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 バasketウィーブテープ固定		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロック固定		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義実習
科目名	柔整臨床実技Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時間	後期	教室名	実習室2
担当教員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
軟部組織損傷の評価について理解し、実践する。						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験及び記述試験にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</li> <li>・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</li> <li>・「運動学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・医歯薬出版株式会社</li> </ul>						
《授業外における学習方法》						
解剖学、機能解剖学の理解を深め、組織損傷の病態を考える。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	腰部の機能解剖、評価			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診			
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診			
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習	
		各コマにおける授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	まとめ	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	復習、実技練習		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	実技試験	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
		各コマにおける授業予定	実技試験		

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔道Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	前期 火・3限	教室名	体育館
担 当 教 員	奥野 勝彦	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
柔道Ⅰにおいて修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(投げの形、実戦形式での受身)の取得を目標とする。「投の形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。なお、柔道実技審査に向けた指導をし、習得させる。						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
認定実技審査の項目						
《授業外における学習方法》						
柔道昇段審査の合格も目指せるようになってほしい。						
《履修に当たっての留意点》						
高度な受身・投げ技を習得するとともに、相手のことを尊重し、協力して全員が柔道実技審査に合格することを目標とし、授業に参加する						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道着の着こなし方、礼法、受身、投げの形について理解できるようにする。	認定実技審査要綱	柔道着の確認	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 柔道実技審査に向けたビデオ鑑賞			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	前回り受身 飛び込みの前回り受身の確認 すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動	
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	審判の体験
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	実技試験に向けた演舞、実践練習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復学基礎Ⅱ(柔道整復学を総合的に学ぶ)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時間	前期 月・1限	教室名	303教室
担当教員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学を総合的に学び、他科目についても学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改定第7版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験の出題数が一番多い科目である。意識して復習し、理解を深めて欲しい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	必修問題・一般問題国試出題基準の問題・解説		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期学習内容の復習を行い、苦手分野を把握し理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	前期内容復習・まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	後期 水曜日	教室名	303教室
担 当 教 員	井上晃一	実務経験とその関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
国家試験に向けて学習の振り返りと対策【関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像】						
《成績評価の方法と基準》						
授業内評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
各科目の教科書						
《授業外における学習方法》						
問題を解き得意、苦手分野を明確にし振り返り学習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
正解率の向上を目標に学習する						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第14版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係法規、医療概論、社会制度、柔整上肢下肢骨折、医用画像についての問題解説を行い、国家試験レベルの問題について理解することができるようになる。	対策問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題と振り返り学習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	前期 金・1限	教室名	303教室
担 当 教 員	池上 直樹	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許 鍼灸師			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として柔道整復師国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じて問題演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第7版、柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 運動学 生理学						
《授業外における学習方法》						
小テストの問題に対して問題解説を作成する。柔整、運動、生理などの問題に対して実技も含め具体的にイメージできるように指導する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書、過去問での復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	302
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として柔道整復師国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じて問題演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編 改訂第2版、						
《授業外における学習方法》						
小テストの問題に対して問題解説を作成する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第 2 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第 3 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第 4 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第 5 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	302
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として柔道整復師国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じて問題演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編 改訂第2版、						
《授業外における学習方法》						
小テストの問題に対して問題解説を作成する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修および一般問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修および一般出題範囲に準じた問題演習を行う。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習 II		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	前期 金・1, 2限	教室名	303
担 当 教 員	池上 直樹	実務経験と その関連資格	柔道整復師 施術管理者 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師として骨学の復習と柔道整復理論の復習を行う。今までの学年でやってきた事のまとめとして授業を展開していく。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験で成績の全てを判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会 解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会						
《授業外における学習方法》						
各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》						
復習をしっかりとしておく。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	頭部・体幹の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	頭部・体幹の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	頭部・体幹の骨折・脱臼と軟部組織損傷		

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習 II		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	前期 金・1, 2限	教室名	303
担 当 教 員	池上 直樹	実務経験と その関連資格	柔道整復師 施術管理者 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師として骨学の復習と柔道整復理論の復習を行う。今までの学年でやってきた事のまとめとして授業を展開していく。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験で成績の全てを判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会 解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会						
《授業外における学習方法》						
各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》						
復習をしっかりとしておく。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2 版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	上肢骨の骨折と脱臼			
第 17 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2 版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	上肢骨の骨折と脱臼			
第 18 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2 版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	下肢骨の骨折と脱臼			
第 19 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2 版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	下肢骨の骨折と脱臼			
第 20 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2 版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	下肢骨の骨折と脱臼			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版 一般臨床医学 改訂第3版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	体幹骨の骨折と脱臼		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	体幹骨の骨折と脱臼		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	体幹骨の骨折と脱臼		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	頭部の骨の骨折		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	頭部の骨の骨折		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	頭部の骨の骨折		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	上肢の筋の損傷		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	上肢の筋の損傷		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	上肢の筋の損傷		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	下肢の筋の損傷		

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習 II		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	前期 金・1, 2限	教室名	303
担 当 教 員	池上 直樹	実務経験と その関連資格	柔道整復師 施術管理者 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師として骨学の復習と柔道整復理論の復習を行う。今までの学年でやってきた事のまとめとして授業を展開していく。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験で成績の全てを判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会 解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会						
《授業外における学習方法》						
各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》						
復習をしっかりとしておく。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 31 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	下肢の筋の損傷			
第 32 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	下肢の筋の損傷			
第 33 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	骨・筋の復習をして記憶の定着を促す	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	体幹損傷			
第 34 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	体幹損傷			
第 35 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し	
		各コマに おける 授業予定	体幹損傷			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	胸郭出口症候群		
第37回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	腰椎の骨折		
第38回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	橈骨神経損傷		
第39回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	野球肘・テニス肘		
第40回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	モンテギア骨折		
第41回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	ド・ケルバン病		
第42回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	中手骨骨折		
第43回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	股関節脱臼		
第44回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	大腿部肉離れ		
第45回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な外傷と合併症についての理解が出来るようになる	柔道整復理論 改訂第6版 解剖学 改訂第2版	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復演習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時間	後期 水2	教室名	302
担当教員	井上晃一	実務経験と その関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、柔道整復学を中心とした学習の振り返りと対策						
《成績評価の方法と基準》						
授業内評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。		柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
	各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説				
第2回	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。		柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
	各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説				
第3回	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。		柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
	各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説				
第4回	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。		柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
	各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説				
第5回	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。		柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。	
	各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第14版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度、職業倫理を中心に復習をしながら問題演習を行い、国家試験レベルの問題を解けるようになる。	柔道整復学・理論編、関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、問題プリント	教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。
		各コマにおける授業予定	対策問題の回答・解説		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	後期 火・1,2限	教室名	303教室
担 当 教 員	大村晋司	実務経験とその関連資格	専門学校専任教員13年、専門学校非常勤8年、整骨院勤務6年、開業8年			
《授業科目における学習内容》						
国家試験に向け柔道整復学を中心とし、その他の関連科目を織り交ぜる。全講義で国家試験を意識した選択問題を1500問を解き解答解説を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験、出席点、授業態度の点数で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復の教科書(柔道整復理論・実技)、その他関連科目						
《授業外における学習方法》						
習った項目を教科書で調べる。解説しきれなかった問題などは私が作成した解答解説による自主学习						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo1:50	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo2:51～100	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo3:101～150	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo4:151～200	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo5:201～250	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo6:251～300	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo7:301～350	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo8:351～400	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo9:451～500	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo10:501～550	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo11:551～600	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo12:601～650	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo13:651～700	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo14:701～750	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo15:751～800	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	120 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	後期 火・1,2限	教室名	303教室
担 当 教 員	大村晋司	実務経験とその関連資格	専門学校専任教員13年、専門学校非常勤8年、整骨院勤務6年、開業8年			
《授業科目における学習内容》						
国家試験に向け柔道整復学を中心とし、その他の関連科目を織り交ぜる。全講義で国家試験を意識した選択問題を1500問を解き解答解説を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験、出席点、授業態度の点数で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復の教科書(柔道整復理論・実技)、その他関連科目						
《授業外における学習方法》						
習った項目を教科書で調べる。解説しきれなかった問題などは私が作成した解答解説による自主学習						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo16:801 ～850	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo17:851 ～900	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo18:901 ～950	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo19:951 ～1000	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo20:1001 ～1050	講義で学習したことの復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo21:1051 ～1100	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo22:1101 ～1150	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo23:1151 ～1200	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo24:1201 ～1250	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo25:1251 ～1300	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo26:1301 ～1350	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo27:1351 ～1400	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo28:1401 ～1450	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo29:1451 ～1500	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 総復習	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	柔道整復演習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	前期 火・1, 2限	教室名	303教室
担当教員	大村 晋司	実務経験とその関連資格	整骨院にて6年勤務、朝日医療専門学校にて専任教員13年 大村接骨院開院11年			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師国家試験に向け、解剖学、生理学、運動学、柔道整復学、一般臨床医学など主要科目を総合的に学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、解剖学、運動学、生理学、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験合格が単なる目標ではなく、その先の臨床を見据えた講義とする。学生の皆さんもそのつもりで学んで欲しい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	オリエンテーション(自己紹介など)、現在の実力を評価するために柔道整復理論など総合的に小試験を行う		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
	各コマにおける授業予定	柔道整復理論、解剖、生理、一般臨床などを中心に出題				
第2回	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する解剖学、生理学的・運動学、一般臨床医学などを総合的に学ぶ。		解剖学 運動学 生理学 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
	各コマにおける授業予定	柔道整復理論、解剖、生理、一般臨床などを中心に解答・解説				
第3回	授業を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。		柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
	各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。				
第4回	授業を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。		解剖学 運動学 生理学 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
	各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。				
第5回	授業を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。		柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
	各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				
第7回	演習を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				
第8回	演習を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				
第9回	演習を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				
第10回	演習を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				
第11回	演習を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				
第12回	演習を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				
第13回	演習を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				
第14回	演習を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				
第15回	演習を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う
	各コマにおける授業予定				

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	柔道整復演習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時間	前期 火・1, 2限	教室名	303教室
担当教員	大村 晋司	実務経験とその関連資格	整骨院にて6年勤務、朝日医療専門学校にて専任教員13年			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師国家試験に向け、解剖学、生理学、運動学、柔道整復学、一般臨床医学など主要科目を総合的に学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、解剖学、運動学、生理学、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験合格が単なる目標ではなく、その先の臨床を見据えた講義とする。学生の皆さんもそのつもりで学んで欲しい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション(自己紹介など)、現在の実力を評価するために柔道整復理論など総合的に小試験を行う	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
		各コマにおける授業予定	柔道整復理論、解剖、生理、一般臨床などを中心に出題			
第17回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する解剖学、生理学的・運動学、一般臨床医学などを総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
		各コマにおける授業予定	柔道整復理論、解剖、生理、一般臨床などを中心に解答・解説			
第18回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。			
第19回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。			
第20回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	オリジナルのレジュメ、教科書を使い復習を行う	
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	解剖学 運動学 生理学 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		
第22回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		
第23回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	解剖学 運動学 生理学 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		
第24回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		
第25回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	解剖学 運動学 生理学 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		
第26回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		
第27回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	解剖学 運動学 生理学 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		
第28回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		
第29回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	授業の振り返り、学生の習熟度を図りながら進行し知識習得の遅れをとる学生を出さないように心がける。	解剖学 運動学 生理学 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		
第30回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前回講義の振り返り。柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学を中心に小テストを行う。	柔道整復理論 柔道整復実技 レジюме	オリジナルのレジюме、教科書を使い復習を行う
		各コマにおける授業予定	小テスト(15問から20問)を進行度に合わせて実施、解答解説を行う。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復術適応の臨床的判断		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時間	前期 水・2限	教室名	303教室
担当教員	井上晃一	実務経験と その関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
超音波画像装置の取り扱いや、医用画像の抽出、読影の基本を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
施術の適応と医用画像の理解,,解剖学, 柔道整復学・理論編						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み・医療用語学習・骨・筋の解剖の理解						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師が業務で取り扱うことのできる画像検査装置であり、国家試験問題にもエコー検査画像が出題されている。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	検査装置と医用画像の種類、使用上の注意点について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマに おける 授業予定	医用画像検査装置の分類と医用画像			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	検査装置と医用画像の種類、使用上の注意点について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマに おける 授業予定	医用画像検査装置の分類と医用画像			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	超音波装置や画像表示について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマに おける 授業予定	超音波装置と画像表示について			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	超音波検査装置プローブの操作方法・基礎操作実技について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマに おける 授業予定	超音波検査装置プローブの操作方法・基礎操作実技			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマに おける 授業予定	上肢の触診と検査法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	上肢の触診と検査法		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	上肢の触診と検査法		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	上肢の触診と検査法		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	上肢の触診と検査法		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	下肢の触診と検査法		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	下肢の触診と検査法		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	下肢の触診と検査法		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	下肢の触診と検査法		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	下肢の触診と検査法		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	復習とまとめ	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料
		各コマにおける授業予定	復習とまとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	実習演習
科 目 名	臨床実習Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	前期	教室名	外部施設
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、鍼灸師、NSCA-CPT JATIトレーニング指導者、健康運動実践指導者、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
<p>スポーツトレーナー系実習として、スポーツ現場における挨拶および社会人としての基本的マナーを主体的に実践するとともに、下級生への指導やサポートができる力を養う。現場において応急処置やストレッチ等の対応を行いながら、利用者との適切なコミュニケーションおよび状況に応じた判断力を身につける。また、学内で修得した知識と実践を統合し、利用者への施術を通して実践的な技術力の向上を図るとともに、将来の臨床および就職後を見据えた行動力を養う。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点</li> <li>・平常点</li> <li>・レポート提出</li> </ul>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
必要に応じて配布資料						
《授業外における学習方法》						
<p>スポーツ現場への理解を深めるため、日常的にテレビ中継やインターネット等を活用し、各種スポーツの観戦を行い、トレーナーの役割や現場での対応について関心を高めること。 また、テーピングやアイシング等、授業で学習した技術については自宅等での反復練習を行い、技能の定着を図ること。さらに、関連する座学内容についても復習を行い、知識と実践を結びつけて理解を深めること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>本実習では、スポーツ現場で求められる基本的態度として、挨拶の徹底および時間厳守を遵守すること。また、実習中に不明点や疑問点が生じた場合は、そのままにせず必ず教員へ確認し、安全かつ適切な対応ができるよう努めること。 さらに、受動的な姿勢ではなく、実習の機会を有効に活用するため、常に積極的な姿勢で参加すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第2回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第3回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第4回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第5回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				



2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	その他	授業の方法	実習演習
科目名	臨床実習Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時間	前期	教室名	外部施設
担当教員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、鍼灸師、NSCA-CPT JATIトレーニング指導者、健康運動実践指導者、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
<p>スポーツトレーナー系実習として、スポーツ現場における挨拶および社会人としての基本的マナーを主体的に実践するとともに、下級生への指導やサポートができる力を養う。現場において応急処置やストレッチ等の対応を行いながら、利用者との適切なコミュニケーションおよび状況に応じた判断力を身につける。また、学内で修得した知識と実践を統合し、利用者への施術を通して実践的な技術力の向上を図るとともに、将来の臨床および就職後を見据えた行動力を養う。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点</li> <li>・平常点</li> <li>・レポート提出</li> </ul>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
必要に応じて配布資料						
《授業外における学習方法》						
<p>スポーツ現場への理解を深めるため、日常的にテレビ中継やインターネット等を活用し、各種スポーツの観戦を行い、トレーナーの役割や現場での対応について関心を高めること。 また、テーピングやアイシング等、授業で学習した技術については自宅等での反復練習を行い、技能の定着を図ること。さらに、関連する座学内容についても復習を行い、知識と実践を結びつけて理解を深めること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>本実習では、スポーツ現場で求められる基本的態度として、挨拶の徹底および時間厳守を遵守すること。また、実習中に不明点や疑問点が生じた場合は、そのままにせず必ず教員へ確認し、安全かつ適切な対応ができるよう努めること。 さらに、受動的な姿勢ではなく、実習の機会を有効に活用するため、常に積極的な姿勢で参加すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。			必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第17回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。			必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第18回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。			必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第19回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。			必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				
第20回	授業を通じての到達目標	挨拶や社会人としての基本的マナーを理解し、適切に行動できるようになることを目標とする。また、利用者との関わりを通じてコミュニケーションスキルおよび実践的な技術力の向上を図る。			必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る
	各コマにおける授業予定	湯郷ベルボランティア実習、湯郷ベルストレッチブース対応、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェスの学校イベント対応				



2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	臨床柔道整復学・演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時間	後期 土2・3限	教室名	303教室
担当教員	奥出 一貴 松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NCSA-CPT、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
国家試験出題レベルと同等の卒業判定試験を実施する。						
《成績評価の方法と基準》						
卒業判定試験(必修問題80%以上かつ一般問題60%以上)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国家試験出題に準じるテキスト全般						
《授業外における学習方法》						
国家試験合格を目指し、とくに主要科目の復習を重点的に行う。						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験合格へ向けて自宅学習や放課後学習の習慣を早期に定着させる。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。	
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。	
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。	
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。	
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。	
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題レベルの卒業判定試験を実施し、現状の学力レベルの把握と国家試験合格を目指す。	国家試験出題科目テキスト	過去問題集を解く。調べ学習の実施。
		各コマにおける授業予定	卒業判定試験 午前128問、午後122問		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	関係法規		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時間	前期 水・1限	教室名	303教室
担当教員	井上晃一	実務経験と その関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師法及び関係法規、社会保障制度と職業倫理を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師や医療法などの関係法規について学び。社会保険制度や職業倫理を理解する。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	法について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	序論(法について)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者の権利と医療過誤、リスクマネジメントについて理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	序論(患者の権利と医療過誤、リスクマネジメントについて)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	目的と免許について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(目的と免許)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	免許と国家試験について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(免許と国家試験)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	業務について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(業務)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	業務について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(業務)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	施術所について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(施術所)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	広告について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(広告)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	罰則について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(罰則)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療従事者に資格法について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	関係法規(医療従事者の資格法)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療法について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	関係法規(医療法)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉・社会保険関係について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	関係法規(社会福祉・社会保険関係)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	個人情報について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	関係法規(個人情報)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	療養費について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	療養費について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	療養費について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	療養費について		